

# 埼玉の 暮らしと 社会保障

2023年9月1日発行 第329号

(毎月1回発行)

発行 埼玉県社会保障推進協議会

〒330-0064 さいたま市浦和区岸町7-1 2-8 自治労連会館1階

TEL 048-865-0473 FAX 048-865-0483

ホームページは「埼玉社保協」で検索ください

2023年キャラバン特集 ～2弾～

## 要請団から切実な現状の訴え 各地域からの報告

本庄市児玉郡市 一市三町と懇談

広がる“暮らしの困難” 打開を訴える

川口市と懇談【20コース】

【3つのコース】

23年キャラバンは自治体6カ所に参加。国保については統一に向け、担当者が苦悩しているようです。



①激変緩和措置がなくなり、②一般会計法定外繰り入れ解消への圧力、③税込納課の強硬的徴収、④県が求める国保税アップ、⑤剰余金、基金の使い道、⑥統一に向け県に移譲する、間つなぎとも聞こえた。

長年の成果としては、本庄市が7～8年ぶりに滞納相談ブース（家宅捜索の威圧的写真貼りめぐらす）2カ所を撤去した。何年も撤去の交渉を繰り返してきた。

各課新しい担当となり申し送りがきちっとやられていないようだ。特に国保法77条申請減免についてはよく理解されてないと見えた。個別案件については誠実に聞き取っていた。

児玉郡の上里町、神川町、美里町の三町については住民に寄り添う取り組みが見られた。国保については市よりも財政の厳しい実態があるようです。前年度の収支を見ると黒字が多く、その剰余金については、一般会計に戻したり、保険事業に使われたり繰り越し繰り入れたりして本庄市以外、基金は増えていません。

介護保険については、保険料、利用料減免はどこでもほとんどやられていない。滞納に対しての「給付制限」が出てきている。後期高齢窓口2倍化もあってか、国の介護保険改定にも注目している。

三町、子育て支援は前向きで、特に「ヤングケアラー」について何件かあって、今後支援も考えているようです。今後は「資料集」の項目に設ける必要を感じました。

全体をとおして、国保統一まで「なんとか切り抜ければ」という自治体の思いが見え隠れしました。引き続き丁寧な懇談、交渉していかないと社会保障が後退する不安を残して終わりました。

(埼玉商連 金澤 利行)



川口市では7月13日、市民48名、市当局20名が参加して行われ、市の職員も社会保障が直面する課題を知ることができたと思います。

介護分野＝介護保険料が制度開始から2倍以上になっており、更なる値上げをしないよう要望。市は、介護認定者の増加を理由に拒否。今年4月に始まったヤングケアラーの支援制度が知られていないことについて、市側から「周知、拡充を図る」と積極的な姿勢が示されました。

国保分野＝低所得層の減免について県は国保の統一を進めているが、77条による市の減免を上げ県にも働きかけを求めました。市側は、必要性を認めるにとどまりました。市民から、国保は社会保障であり「赤字だから出来ない」でなく進めるよう要望しました。

子ども分野＝学校給食と18歳までの医療費の無償化を求めました。市側は、いずれも恒久的財源の確保が難しいことを理由に「考えていない」との回答。市民は川口市より財政力の弱い市町村でも実施している事実を“キャラバン資料”を示し、政策の転換を求めました。

障がい者分野＝肢体不自由児の特別支援学校建設が滞っている問題を取り上げ、現状が困難なら小規模でも一日も早い開設を強く要望しました。市は、課題の整理中と答弁。

生活保護分野＝高齢単身者の住宅確保が困難な状況を示し、市営住宅の応募状況を質問。市は、5月には応募率7・3倍と回答。市民は単身高齢者増への対応を求めました。

(川口市社保協 倉橋 光男)

## 各分野での寄り添った行政を求めた

### 三郷市と懇談(14 コース)

7月12日、3年ぶりに人数制限のない懇談を持つことができました。32名の参加で当局と懇談しました。

市側のあいさつに続き、県社保協の段事務局長の挨拶後、主要な要求についての市側の回答がなされました。基本的に昨年同様の回答でした。東條事務局長の進行で懇談に移りました。

#### 【全体的】

- ① コロナの第9波が心配されているが、市の定点観測医療機関はいくつで、この1週間での感染者数を知りたい。

A 担当が来ていないので、後日お知らせする。

- ② マイナ保険証に関わるトラブル件数は？

A ゼロである。

#### 【介護関係】

- ① ゴミ出しの市としての対応を求める。

A 困難

- ② ヤングケアラー問題への対応を。

A 包括支援センターでの対応を。

- ③ ケアマネへの人材確保のための補助を。

A 財政的に困難である。

- ④ 総合事業をやらない事業所が増えている。

A 情報収集に努める。

#### 【障がい者関係】

- ① 計画相談支援事業所の拡充が求められる。

A 現在8カ所、検討しているが、なかなか進まない。

- ② 市街化調整区域でのグループホーム建設について、自前で建てることへの後押しを

A 市独自の制度を検討はするが？

- ③ 災害時の避難計画について

A 防災課の計画の中では、文言として出てはいる。

- ④ 障がい者の受け入れが厳しくなっていることへの対処を

A 事業所に受け入れるように働きかけたい。

#### 【子育て関係】

- ① 0歳児の待機者数と不承諾の理由は、

A 4月1日時点で1名であった。現在入りやすい環境である。窓口で相談に。

#### 【生保関係】

- ① 相談件数と認可件数が低まっている。窓口での第三者の同席を。

A 個人情報扱う関係上、制限を加えていた。希望すればその限りでない。

- ② 80世帯に1人の基準、必要な相談員が満たされていない。

A 現在100世帯に1人、人事で希望はだしているが。

#### 【国保関係】

- ① 法定外繰入を継続してほしい。

A 県の方針もある。

- ② 資格証明書・短期保険証をゼロに

A 越谷方式を検討する。

- ③ 差し押さえと同時の資格証明書の発行をやめよ。

A やっていない。

- ④ 健診の受診率が極めて低い。他市並みに無料に。

- ⑤ 後期高齢者の健診への連絡の継続を

A 健康推進課がいないため、後日回答を約束。

最後の挨拶で、「数字として結果を出してほしい」という昨年のお願いは、一部実施されたものの、以前県下で一番悪い数字を改善できなかったことについて、猛省を促しました。そして、貧困の中、虐待されている子どもを守るための施策が、全国で先駆けて当市で行われている事実をあげ、各分野での市民に寄り添った行政を求めました。今年も、大事な指摘に対して、回答担当部が出席していない場面も多々ありました。来年は、多くの課の出席を求め懇談を終わりました。

(三郷市労連「はばたけ」7月号より)

## 医療生協さいたま・民医連

### 『保険証をなくさないで！特別月間』 にとりくみます

岸田首相は8月4日に開いた記者会見で、2024年秋に健康保険証を廃止する方針を維持した上で、「資格確認書」の有効期間を1年としていたものを最長5年に延長する旨を表明しました。

相次ぐマイナンバーカードのトラブルと、極めてずさんなシステムと運用が明らかになり、「現行の保険証の廃止」と「マイナンバーカードの強制」への反対世論が日増しに高まるなか、政府は方針変更を余儀なくされたことによるものです。

しかし、国民が本当に求めているのは、保険証の廃止を中止・撤回し、現行の健康保険証を残すことです。

医療生協さいたま・埼玉民医連として、以下の様に『保険証をなくさないで！特別月間』に取り組む予定です。

<期間>10月末まで <目標>①署名:1万筆/集めた

署名を全日本民医連の提起にあわせ秋の臨時国会に提出します。(第一次集約9月末) ②宣伝行動:各地域で1回以上の署名行動やスタンディング等を行います。

#### <取り組み方>

・各地区、事業所の委員会などで学習を位置づけ、行動計画をたてます。

・ミニ動画①『保険証をなくさないで マイナンバー返却編』②『同 マイナ保険証トラブル編』などを外来待合室などで視聴できるようにします。

ミニ動画はそれぞれ1分~1分30秒です。動画データをご希望のかたには視聴方法等をお知らせしますので、お問合せください。

国民的な運動を広げ、受療権を侵す健康保険証の廃止をストップさせましょう。

(医療生協さいたま 高橋 卓哉)

# 全国から2800人が参加 きょうされん第46回全国大会in埼玉

第46回きょうされん全国大会 in 埼玉が8月30日、31日にソニックシティを中心に浦和コミュニティセンター、埼玉県障害者交流センターの3会場で開催されました。「さけぼう命と尊さ いだこう人権の重み つなごう平和への願い〜わたしらしく あなたらしく 生きられる社会を〜」をテーマに全国から2800人の参加者でした。

オープニングの式典では、埼玉支部 WA 会のみなさんの歓迎のあいさつ（パフォーマンス）後、斎藤理事長から、「コロナ危機のもと、不安と緊張にさらされながら、いのちと健康を守るために懸命の日々が続いてきた。浮き彫りになったのは医療や保健の基盤のもろさであり、障害福祉の貧弱さが追い打ちをかけ、急激な物価高騰は、障害のある人の暮らしや事業所の経営を圧迫し、職員不



足の深刻さも日に日に増しました。そうした中で、きょうされは、「つながること」をなによりも大切に、優生保護法問題、65歳問題、いのちのとりで裁判にはとりわけ力を注いできた。障害者権利条約の初の日本審査と総括所見を踏まえての、本格的な学びや交流を深める大会。障害のある人の願いと実態をもとに、実践・経営・運動をさらに発展させていくために、幅広い人々と手を携え、心ひとつに明日へのエネルギーを培っていく場として、実りある二日間としていきたいと思います。」とあいさつがありました。

小野寺実行委員長のあいさつでは、この2年にわたって準備を多くの仲間とすすめてきこと、開催できたことを感謝する思いが伝わってきました。また、あいさつの最後に、会場の人々と素敵な声で合唱しました。

基調報告では、藤井克徳専務理事から、国内外の動き、特に大規模な軍事拡大を止めるためには、憲法・社会保障の重要性、そして、人権を大切にしていくために優生保護法問題の解決、生活基準の引き上げを求める裁判等にふれました。総括所見を地域のすみずみにひろげ、いきわたらせていく。そして、障害のある人が人生の主人公として暮らすことのできる社会の実現に向け、懸命さ

れる事柄やその解決に向けて勧告が示されていることにも報告がありました。

最後に、今大会は、命と平和と人権を大切に活動する幅広い団体で構成された実行委員会の下で準備を進めてきた。憲法や権利条約を手に、一人ひとりが大切にされる社会づくりに向けた一歩の大会にしていこうと呼びかけました。

長いようで短い期間の中で、実行委員会を重ねてきた大会実行委員、事務局、埼玉支部担当者のみなさんたいへんお疲れさまでした。実行委員会から参加し、大会にも参加でき、ほんとうに、みんなで議論を重ね、みんなで作ってきた大会だったと思います。このみんなの思いが政府、政治家のみなさんに伝わるような、平和と人権を大切にできる社会になるように頑張ろうと思ったきょうされん全国大会でした。

(埼玉県社保協 段 和志)

## ～社保協30周年プレ企画～

### 荻野吟子記念館、見学と散策ツアー

日時：11月18日(土)

集合：熊谷駅北口 午前9時30分

会費：500円（※お弁当代含む）

※交通費は個人負担でお願いします。

(浦和駅から熊谷駅 片道770円・バス代片道440円)

目的地：「荻野吟子記念館」

(生誕の地史跡公園・熊谷市俵瀬)

※現地解散可。



### 《当日のスケジュール》

9:30 熊谷駅北口集合→10:00 バス発車→10:30 葛和田団地着→10:50 荻野記念館着(徒歩20分) →11:00 記念館見学&解説→11:45 光恩寺に向けて出発→12:05 渡船場到着(→船10分) →12:15 赤岩宿・渡船場着→12:20 昼食 (40分) →13:00 旧荻野家長屋門着・散策・おみやげ(川崎製麺所) →14:10 赤岩宿渡船場発→14:35 葛和田バス停発→15:10 熊谷駅北口着

～お申込み、お問合せは社保協へ～

## 「生活保護制度」の学習会と定期総会

鴻巣市社会保障を良くする会



8月8日、鴻巣市社会保障をよくする会が「生活保護制度について」の学習会と第21回定期総会を鴻巣市民活動センターで、16名が参加して開催しました。第一部の学習会講師は、埼玉県生活と健康を守る会の副会長多賀哲也さんで、生活保護の基本原則と保護申請の流れを話され、現在の課題を資料をもとに社会保障の後退と対策を解説され、安心な生活を築くための法改正が求められている現況を具体的にお話しされました。多賀さんのお話では、国際的に遅れている生活保護行政や制度の抜本的改善が急務であると指摘し、社会保障の後退を進める国や自治体への運動についても「地域から社会保障の充実を求める運動と支援体制」が重要だと助言されました。

### 社会保障の充実を求めて！

第二部の第21回定期総会では、倉林健次さんを議長に、2022年度の活動報告・会計報告、2023年度の活動方針・会計予算・役員提案を審議しました。



国の社会保障の後退、国民いじめの政治が行なわれている中で「鴻巣市に住んでよかったと思える地域づくり」のために、国・県や鴻巣市へ住民福祉・社会保障制度の充実に向けた要望を強める「よくする会」の運動がますます重要になると提起し、自治体要望や学習会の計画を増やすことも提案しました。

総会で、活動報告・会計報告・2023年度の活動方針・予算案・運営役員の提案が承認され、2023年度がスタートしました。

(鴻巣市社会保障を良くする会8月号ニュースより)

### 埼玉県政要求共同行動

日時: 11月2日(木)10時~17時

午前は集会、午後は社会保障分野と県政全般にわかれて県と懇談を行います。

会場: さいたま共済会館

午前・午後 社会保障分野/501・502  
午後・県政全般/505

### 第32回埼玉社保協総会・レセプションを予定

日時 12月16日(土) 10時~15時

会場 さいたま共済会館601・602

埼玉県社保協30周年レセプション

(15:30~17:00を予定)

テーマ「埼玉から全国へ~

社会保障の拡充をめざして~」(仮称)

♥ オープニングイベントなどの出演を募集中。

### 県議団主催 第2回「国保問題学習会」

### 県へパブリックコメントを送ろう

8月25日に教育会館において、日本共産党県議団主催の「第2回国保問題学習会」を神奈川県自治労連委員長の神田敏史氏を招いて行われ「国のモデルとされる『埼玉県国保税引き上げ方針』」で講演をいただきました。市町村議員を含めて46人が参加をしました。埼玉県が提案している「第3期国保運営方針案」をわかりやすく解明し、埼玉県は全国の他県よりも積極的にすすめており、「保険税水準の統一スケジュールは早く、国が「赤字」と定める決算補填目的の法定外繰入の解消だけでなく、市単独で行う軽減制度の決算補填目的以外の繰入金の解消をめざしている。など県の保険税統一の強引な進め方について批判を示しました。

城下県議団長から、「高すぎる保険税にしないために」県へパブリックコメントを送ろうと呼びかけがありました。

地域社保協、団体のみなさんからも下記へ「パブリックコメント」の送付をお願いします。

締め切り日は9月22日までです。

送付先 ・郵便の場合: 〒330-9301 さいたま市浦和区高砂 3-15-1 埼玉県保健医療部国保医療課国保財政担当あて

・FAXの場合 048-830-4785

・電子メールの場合

a3350-10@pref.saitama.lg.jp

いずれも件名を「埼玉県国民健康保険運営方針(第3期)(案)への意見」としてください。